



信太の森ニュース

No. 47
2024年1月7日

文責 田丸八郎



信太山丘陵里山自然公園上空を舞う6羽のコウノトリと1羽のミサゴ 2024.12.01

信太山丘陵里山自然公園の西エリアが開園してから4ヶ月が経過しました。

猛暑の中での開園でしたが、網を持って虫取りをする子ども連れの家族や夫婦での散策、近所の友達と散歩など里山自然公園の利用者が増えつつあります。

開園後、殺風景であった管理棟内部も入口付近には自然のクラフトを配置し、管内奥の壁面には信太山丘陵の植物、野鳥、キノコなどのパネルをボードに展示するほか植物図鑑など自然に関する書籍なども順次揃え少しずつ充実しつつあります。

しかし、その一方で前号でお知らせした旧泉北水道企業団跡地にスポーツ施設建設

設計画が浮上しており、市庁舎内部でも検討が進められている状況です。

12月1日は、公園協議会の定例活動日でした。作業が終わり、全員が管理棟に戻ってきたことでした。上空に7羽の大きな鳥がぐるぐると舞っていて参加者みんなが暫くそれを見上げていました。コウノトリ6羽とノスリ1羽の集団でした。

コウノトリは2012年信太山丘陵市有地検討委員会が発足した年が初飛来で続けて3年間やって来ました。「生物多様性に富んだ地域のシンボル、次世代へ継承していくべき市民の財産、地域のシンボルである」ことを答申させました。6羽の飛来はまるでその実現を祝うよに。

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357 090-1225-9159
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

里山自然公園開園後

8月1日に開園した信太山丘陵里山自然公園は、来園者も徐々に増え、市民の憩いの場として利用されています。

前号でお知らせしたオープニング・セレモニーは8月3日でしたが、オープニング・イベントは猛暑ということもあり、涼しくなった10月19日に実施され、約150名の参加がありました。FANクラブは野外での「のこぎり体験」と館内でクラフト作りを担当してイベントを盛り上げました。当日お手伝いいただいた会員のみなさんご苦労様でした。

こうしたイベント以外でも11月19日には南池田小学校3年生74名の案内。12月6日には鶴山台南小学校4年生34名の案内などFANクラブ会員の協力により実施されました。

さて、公園東エリアについては、これまでに定期的に園路及び広場の保全活動を行ってきましたが、いつまでに完成させるという話がいまだに聞けません。

次年度からアラカシ林伐採による草原復原工事、尾根筋園路の整備、^{あずまや}四阿、トイレの整備が進められることとなりますが、^{いつ}何時までに完成させるという話がありません。国庫による補助金目当が原因のような気がします。

泉北水道企業団跡地について3市に要望書

私たちは、信太山丘陵の自然を守るために10数年前、大型スポーツ施設建設計画に反対して「里山自然公園を」と運動してきました。その結果、今年8月その一部（西エリア）が正式に開園されました。

そんな中、和泉市教育委員会生涯学習部は9月末を期限とする市民アンケートを実施しました。

その結果が出た頃にと小林議員を介してスポーツ振興係に対して「オオタカの繁殖地で

あり、水鳥の越冬地となっている自然環境の保持を申し入れ、高石市及び泉大津市に対しても現状維持を申し入れました。

和泉市においては「旧泉北水道企業団跡地を候補地として北部総合スポーツセンター（仮称）の機能、規模に関する検討を進める」として、令和6年1月に庁内検討会議を行われており、総合スポーツ施設構想が動き出しており、来年度中に結論を出す方向で進められています。今後の動きを注視していく必要があります。

◎惣ヶ池湿地にイノシシ出現！

惣ヶ池湿地に監視カメラを設置したことを前号でお知らせしましたが、今回（9.10月）はアライグマの出現（4匹の家族）が増えていました。そればかりか驚いたことにイノシシが出現しました。まだウリボウを卒業した子どものイノシシのようです。

イノシシ出現については、この夏の終わり頃だったでしょうか。信太山丘陵の山の谷集落で5頭のイノシシが出たという話を耳にしたばかりでした。

早速山の谷の耕作者に話を聞きに行ったところ、その話は昨年出現したとのことでした。

筆者のイノシシ確認記録では、17年前に信太山丘陵の自衛隊演習場内にある大谷池で爪痕を確認しており、その翌年（2009.01.11）泉北水道企業団の池の淵でも爪痕を確認しています。



監視カメラに映ったイノシシの幼生

山から市街地を通りぬけて信太山にやって来るとは考えられず、誰かがペットとして飼っていたウリボウが大きくなり、自宅では飼えなくなって自衛隊

演習場内に捨てたものではないかと思われます。

今回惣ヶ池湿地に出現した個体は2歳位の子どもようでしたが、カエルやサンショウウオなどの生息に影響がないか心配されます。(最新情報)

年末に配布された鶴山台団地自治会々報に「イノシシ目撃情報」が載っていました。惣ヶ池近くの車道を横断する子どものイノシシだそうで、親イノシシへの注意を呼び掛けていました。

◎惣ヶ池湿地のシソクサ絶滅を脱せるか？

大阪府レッドリスト2000で絶滅種となっていたシソクサが、惣ヶ池湿地が整備された折りに埋土種子が発芽して復活しました。

その場所はやや湿ってはいるものの水が抜けてしまう湿地で、毎年シソクサ探しが行われていました。(写真による記録)

FANクラブが惣ヶ池湿地と関わって以降、シソクサ探しは行っていませんが、絶滅復活種ということもあり、誰かがそれを探していて「今年は〇本あった」などと言っていました。

2017年秋、キノコの調査で長野県伊那地方に行った折、シソクサに詳しい同行者(M氏)にシソクサが3年も見つからないことを話すと帰阪後一緒に探そうということになり探した結果、湿地水路の水が地中に入る間隙でやっと1本見つけました。それを土ごと持ち帰り、自宅で種を採取しました。その種の小さいこと。吹けば飛ぶような微粒子の種でした。

その種をM氏に渡して種を増やして貰い、その種を大阪府大(当時)の藤原宣夫教授(公園協議会副会長)をお願いして苗に育て戴き、その苗を湿地に移植するという方法で3年程やって来ました。

苗作りを毎年お願いする訳にもいかず、どうしたものか思案した結果、少量の種を確保

した上で残った数株の種をその場に落とし、種が大水で流されないよう足で土に踏み固めておきました。その結果、種を踏みつけた場所で沢山発芽して白い花を咲かせてくれました。(写真)



苗作りには一手間かかりますが、この方法だと種が流されて散らばらず、踏みつけた場所で沢山開花させることが出来るということが分かりました。

この方法だと毎年シソクサ探しをしなくても種を踏みつけた場所で発芽、開花すること。大水が出た場合でも種が簡単に流されないことで絶滅の心配をしなくても済みます。今後のシソクサ保全に役立てていただきたいものです。

◎信太山丘陵自生の野草増殖を

里山自然公園西エリアの草原南端に5本株立ちのホソバリンドウがありました。まだ蕾が出かかったばかりの時期にその内の3本が盗られてしまいました。悪戯なのかどうかは分かりませんが、心無い人がいるものです。

信太山丘陵では、昔からヒサカキは神芝として、クロマツやウラジロは正月用の飾りとして採られていたので昔からの慣習ということも考えられますが、今回のホソバリンドウは、蕾がまだ膨らまない内に採取され、悪戯としか思えません。

昨年も盗られていたので「そろそろ採取禁止の立札を」と思っていた矢先のことでした。

「みんなで楽しむために！ 採取厳禁」とした立札をFANクラブで作りました。

その後採取する人もなく、今年も7輪ほどが開花して来園者も



私たちが楽しむことが出来ました。

昨年、ホソバリンドウの花が終わった頃にその種を採ろうと中を見ると種らしきものが見当たらず捨ててしまいました。今年は何とか種を採取しようと咲終わり一定日数が経過した段階で枯れた花筒を開いてみると花柱がこん棒状になっており、それを開いてみると粉状のものがでてきました。今年もだめかと諦めかけたのですが、高倍率のルーペで観察してみるとその中に小さな種が（写真）。



これまで里山自然公園では、数少ないキキョウなどの種を採取して前掲の藤原教授に渡して苗を育てて戴き、それを移植していましたが、リンドウ、アキノキリンソウ、オトギリソウなどについても増やしていく必要があります。草原の植物ばかりでなく、サギソウ、トキソウ、モウセンゴケなど湿地の植物についても繁殖方法を研究していかなければならないと考えています。

活動参加者を増やしたい

この一年、猛暑だけでなく暑い日が10月ま

で続きました。雨が降らず惣ヶ池湿地は殆ど水が無い状態が続いています。

北端のスイレン池と中央の池は完全に干上がり、メダカなど水生生物やニホンアカガエルの産卵にも影響しないかと心配されます。

12月27日は今年最後の活動日。干上がったスイレン池の土揚げは足場の悪さと泥の重さで難航を極め、全体の4分の1程度しか掘り上げることが出来ませんでした。二人の女性会員には木道沿いの草刈をしていただきました。



当日は、一般財団法人環境事業協会の岡本氏が協会が実施する保全講座生の実習等の受け入れについて相談に来られ、来年度実施する保全講座の一課程として7月の惣ヶ池湿地活動日に講座生の実習受け入れと観察等をお願いしたいとの申し出がありました。

この講座は講座修了後に各地で保全活動に参加する人を養成する講座であり、惣ヶ池湿地の保全活動に参加して貰える人が出る可能性もあることから講座生の受け入れを承諾することにしました。

今年度は、森林ボランティア活動者と大学生の二名が惣ヶ池湿地の保全活動に参加していただきました。

後日談：年明けてスイレン池の掘上げた泥を湿地の縁まで一輪車で運び捨てました。一人で3時間、掘り上げた土全体の3分の2程度。湿った土を運ぶのも大変ですが、掘上げるのはもっと大変だったようです。

編集後記：3ヶ月遅れの発行となりました。定期発行できるように皆さんからの寄稿をよろしくお願いいたします。